

みやぎの 林業だより



表紙写真

(上段)令和元年10月
19日20日 豊かな海づくりフェスタ2019～豊かな森づくりゾーン～
(下段)令和元年10月
26日 全国初となる「全国苔フェスティバル in 栗原」

目次

【話 題】	◎「くりはらの苔」を全国へ……………	1
	◎おおさき山がっこ情報バンク活動支援……………	1
	◎気仙沼メンマの試食会を開催しました……………	2
	◎林業技術総合センター内に早生樹試験地を造成……………	2
	◎S-PAL仙台にて木育イベントが行われました！……………	3
	◎林野庁職員・平田美紗子さんによるワークショップも行われました！…	3
	◎第44回宮城県みどりの少年団大会及び 宮城県緑化運動70周年記念タイムカプセル開封式……………	4
	◎宮城県森林インストラクター養成講座受講生募集……………	4
	◎大工さんに学ぶ！大工工作体験会の開催……………	5
	◎合板用県産木材の安定供給と今後の活用に向けて……………	5
	◎仙南フォレストクラブによるインターンシップの取組について……………	6
	◎「鳥獣被害対策専門指導員」によるイノシシ捕獲の取組について……………	6
	◎林業経営者層向け研修の開催について……………	7
	◎「東北・北海道ブロック林業グループコンクール」において、 見事ブロック1位になりました！……………	7
	◎みやぎ防災林パートナーシップ事業の取組について……………	8
	◎令和2・3年度国有林モニターを募集しています……………	9
	◎第2回宮城つながる森業交流祭が開催されました……………	9
	◎豊かな海づくりフェスタ2019 ～豊かな森づくりゾーン～での活動報告……………	10
【市 況】	◎木材市況の動向・特産市況の動向……………	12

令和2年1月10日
発行

219号

※みやぎの林業だよりバックナンバーはこちら↓
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyo-sk/ringyo-dayori.html>



「おさき山がっこ」を全国へ

十月二十六日(土)、栗駒高原森林組合を会場に全国規模のイベントでは初となる「全国苔フェスティバル 栗原(主催同実行委員会)」が開催されました。

この催しは、当地域で取組が進む「苔」の産地化を目指し、全国へのPRや認知度向上を目的に、賛同する全国の苔事業者十一社(新潟、大阪、秋田ほか)が集まり、苔商品の展示や苔事業のパネルディスカッションが行われたものです。また、苔庭教室やステージイベント(市内の七団体による吹奏楽演奏や郷土芸能披露など)も行われ、苔愛好者を中心に県内外から約千五百人が来場し、個性的な苔の美しさや栗原地域の魅力を実感していました。北部地方振興事務所栗原地域事務所は、苔の栽培解説や苔玉のワークショップなど、苔と触れあう楽しいひとときを提供しました。来場者からは、「身近な苔を見る目が変わった!自分でも苔を育ててみたい。」などの声や今後につな

がる意見も多くいただき、地域の特産化に向けた機運が一層高まりました。



パネルディスカッション



苔玉のワークショップ

(北部地方振興事務所
栗原地域事務所)

「おさき山がっこ」情報バンク活動支援

地域の森林と人との関わりを重視した森林環境教育を推進するため、おさき山がっこ情報バンクを北部地方振興事務所に設置し、以降、管内の小学生などを対象とした森林学習の開催を支援しています。

森林とふれあうことが少ない児童たちに、森林の役割について理解を深めてもらうため、宮城県小牛田農林高等学校の演習林をフィールドに、春と秋に管内の小学校五校を対象に、全十回行いました。

制度開始から約二十年の歴史のあるこの活動は、地域に定着



サポーターの話を聞く児童



県職員の話聞く児童

した取組となっており、学校の恒例行事として毎年多くの児童に利用されています。今年度も三百六十三名の児童が参加して、自然とふれあひながら森林・林業について学習しました。この活動は、情報バンクに登録しているサポーターの協力を得て実施しており、林内に生息・生育する動植物についてのお話しや、春はサワガニ捕り、秋はドングリや落ち葉拾いなど、季節に応じたカリキュラムを取り入れ、参加児童からは「楽しかった」、「来年も行きたい」などの感想が寄せられました。限られた時間でしたが、森林の持つ機能や大切さなどを広く普及することが出来ました。

(北部地方振興事務所)

気仙沼メンマの 試食会を開催しました

九月十九日(木)、気仙沼市内のレストランにおいて、来年度からの商品化を目指して、メンマの試作品作りを行った方々など十人に集まっていただき、試食会を開催しました。



ごま油や醤油などで味付けした一品

レストランからは、「発酵が進んでおらず、天日干しもししていないのでメンマ特有の食感がないが、十分おいしく、幼竹そのものが商品として利用できる可能性を持っている」と評価をいただきました。参加者からは



レストランから評価をいただきました

「シャキシャキとした歯ごたえがあって良い」、「予想以上に食べやすい」、「おこわにも使えそう」と好評でした。

試作品は市内において、県と竹林所有者、生産者が協力して、気仙沼メンマ作りとして取り組んだものです。三、六歳の幼竹(孟宗竹と唐竹(真竹))を収穫、皮をむき、スライスし一時間ポイルの後、流水でさまし、塩漬けしました。

需要の大半を占めると予想されるラーメンの具材としての商品化は、今後も試行錯誤が必要ですが、日常の食卓に気仙沼産メンマが並ぶ日を目指してまいります。

(気仙沼地方振興事務所)

林業技術総合センター に早生樹試験地を造成

近年、西日本を中心として早く大きく成長する「早生樹」に期待が高まっています。特にコウヨウザンやセンダンなどは各地で試験植栽が進んでいます。早生樹は、下刈りコストの低減が図られたり、二十年から四十年の短い周期で収益をあげられること、また、樹種によっては超短伐期で木質バイオマス燃料を生産できる可能性があることがその理由です。しかし、これらの早生樹と呼ばれる樹種は、南方を原産とする種が多く、本県の気候風土に適合するかどうかよくわかっていない部分があります。

早生樹種が次世代の造林樹種として、本県での利用が可能であるかを判断するため、県では、平成三十年春に「次世代造林樹種生産体制整備事業」で早生樹試験地を林業技術総合センター内に造成し、ユリノキ、コウヨウザン、センダン、チャンチンモドキ、ヤマハンノキの五種と、比較のためのスギを植栽しました。

当初はイノシシによる引き抜

き被害や、ノウサギによる食害に悩ませられ、侵入防止柵を設置せざるを得ませんでした。植栽後一年半が経過し、種ごとに成長の良いものや、スギとあまり変わらないものなど、一定の傾向が観察されるようになってきたところです。詳細な試験結果については、今後、随時お知らせしていきたいと考えています。

一方、前述の樹種だけでなく、「早く大きくなる」木としては、スギ、カラマツなど従来の造林樹種における「精英樹」も同じような効果が期待でき、全国的に材質や利用について、多くの情報が蓄積されています。今後の研究成果にご期待ください。



早生樹試験地

(林業技術総合センター)

.....
S・I・P・A・L仙台にて
木育イベントが
 行われました!

七月二十日(土)東北大学大学院工学研究科(前田研究室)が主催する木育イベントが盛大に行われました。このイベントは、県事業「みんなで広げる「木育」活動推進事業」を活用した取組のひとつです。



親子で木育

「木育」とは、市民や児童の木材に対する親しみ、木の文化への理解を深めるため、材料としての木の良さや利用の意義を学ぶこと、森林保全や県産材の利

用推進をはじめとした木材利用の啓蒙活動であることから、県では乳幼児から大人を対象とする「木育」活動の一層の普及に努めています。

当日は、CLT(直交集成板)のベンチなどの展示や木の風鈴作り体験、カンナくずのプール・組手^{くみても}手^て付(釘などを使わずに組み立てることができる角材)で遊ぶことができるスペースの設置など、様々な催しが行われました。親子を中心に約三百名の参加があり、イベントはたいへん盛り上がりました。



木のおもちゃは楽しいなあ～

(林業振興課)

林野庁職員・平田美紗子さん
 によるワークショップも
 行われました!

北海道森林管理局企画課の平田美紗子さんを講師に、ワークショップが開かれました。平田さんは分かりやすい漫画を通じて、森林・林業・木材の魅力について国民へ広く発信する活動を行っています。



ワークショップ

テーマは「一本の木から広がる世界・漫画で学ぶ森の魅力」で、一時間のワークショップが二回行われました。マツやスギなどの木の特徴に関する解説、サクラの枝をケヤキの葉で磨く

「樺細工体験」のほか、自身の著書である林業漫画「お山ん画」を使いながら「注意動物」や「林業の循環」などについて解説され、多彩な内容は大変好評でした。

当日は、親子連れをはじめ、多くの大人にも参加いただきました。参加者の多くは、初めて知る内容がほとんどだったようで、ワークショップでは終始、驚きと歓声があがっていました。

また、平田さんが描いた漫画のパネル展示も行われ、多くの方が見入っていました。

今後も県では、各地で木育活動に取り組む団体の支援を続け、林業・木材利用に対する興味を深めていきたいと考えております。



(林業振興課)



タイムカプセル掘り起こし

第四十四回 宮城県みどりの少年団大会 及び宮城県緑化運動七十周年 記念タイムカプセル開封式

今年で四十四回目となる宮城県みどりの少年団大会が白石市の蔵王野営場で開催されました。併せて、宮城県緑化運動七十周年を記念し、平成九年の第四十八回全国植樹祭の関連行事として当時の白石市長や地元の小中学生によって埋設されたタイムカプセルを掘り起こし、開封式が行われました。タイムカプセルには、全国植樹祭参加者の感想文や全国植樹祭の詩、記



クラフト体験コーナー

念写真、記念品等が収められています。タイムカプセル開封式では、次代を担う子供たちに明るい未来が届くことを願って、埋設した方々や現在のみどりの少年団、県環境生活部長、白石市長が白石市の市木であるブナの木を記念植樹を行いました。交流会・レクリエーションでは、NPO法人宮城県インストラクター協会等による木や竹などを使ったクラフト体験が行われました。三十二のコーナーが設けられ、各団員同士の交流が深まり有意義な大会となりました。

(自然保護課)

宮城県森林インストラクター養成講座 ◆受講生募集◆

森林体験活動や自然観察の指導、森林づくりを通して森林・林業に関する正しい知識の普及活動を行う人材を育成するため、宮城県森林インストラクター養成講座の受講生を募集しています。

① 受講資格 令和二年四月一日現在で満二十歳以上の県内在任の方で、受講終了後に森林学習や自然体験の指導等に積極的に取り組むことができる方。

② 募集人員 三十人程度
③ 受講期間 令和二年五月から令和三年一月までの主に土曜日、日曜日又は祝日の十八日間。(このほか、開校式五月、認定試験二月及び認定証授与式



森林インストラクター養成講座

三月があります。)
④ 講座内容 森林・林業、動植物、野外活動等に関する知識・技能習得のための講義と実習。

⑤ 受講費 一万八千円

⑥ 申込方法 令和二年二月十四日(金)までに、申込書・履歴書・八百字程度の小論文(志望動機と抱負)・返信用封筒(八十四円切手貼付)を同封し、県自然保護課へ提出してください。

⑦ 認定までの流れ 一次試験(小論文)及び二次試験(面接)に合格すると講座を受講できます。全十八講座のうち、八割以上出席した方が認定試験の受験資格を得られ、試験に合格した方が宮城県森林インストラクターとして認定されます。

⑧ 認定後の活動について 各種ボランティア団体への加入や、当講座の認定者で組織する「NPO法人宮城県インストラクター協会」が行う、企業、学校の森づくりや海岸林整備、緑化イベントの指導など、幅広い活動が期待できます。

(自然保護課)

大工さんに学ぶ！ 木工工作体験会の開催

九月七日(土)、八日(日)の両日、仙台市七北田公園都市緑化ホールにおいて、仙台市建設職組合の協力のもと木工体験等の木育イベントを開催しました。

このイベントは、仙台管内の「みやぎ児童木工工作コンクール」応募作品の展示に合わせ開催したもので、木工体験では事前に応募のあった親子などが参加し、木製いすやミニテーブルの組立てを行うとともに、カンナがけ体験やノコギリ・ノミ等の大工道具の展示も行いました。カンナがけでは悪戦苦闘し



職人さん達の指導を受ける参加者



子供に人気の林業キッズコーナー

ながら、木の表面の滑らかな仕上がりや鯉節のような薄い削り屑に驚いていました。また、仙台地方振興事務所のイベントで恒例となっている「なりきり林業キッズコーナー」も設置し、防護服を着たり、トイチェンソーを持って写真を撮ったりと、皆さん楽しんでいました。

木工工作コンクルールの作品展と同時開催したこともあり、二日間とも多くの人で賑わい、職人さん達からの丁寧な指導もあって、木工体験を通じて木材の良さを多くの方々にPRすることができました。

今後も関係者と連携を図りながら木育活動を推進していきます。(仙台地方振興事務所)

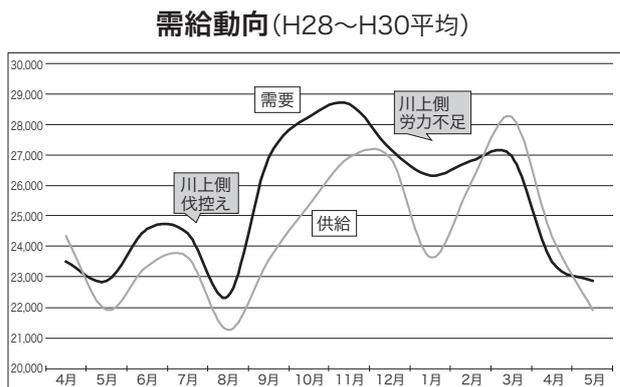
合板用県産木材の安定供給と今後の活用に向けて

東部地方振興事務所管内では、合板用県産木材の安定的な供給等を図ることを目的に、宮城北部流域森林・林業活性化センター石巻支部と連携して、川上から川下までの関係者・関係機関が一堂に会し、年三回、検討会等を開催しています。

会議では、素材生産事業者や合板会社などから需給実績や需給計画の報告があったほか、東部地方振興事務所からはこれまでの需給実績をベースに周年の需給動向を分析した結果を「見える化」して提示し、時期毎に



検討会



今後、川上側と川下側の関係者間で互いの課題点を共有し、課題の解決を図ること、より安定的な需給バランスを築いていけるよう、引き続き支援を行ってまいります。

また、人口減少社会に伴う住宅向けの木材需要縮小に対応していくため、厚物合板や広葉樹の利用などの新用途・新技術の開発等についても検討を進めてまいります。

(東部地方振興事務所)

仙南フォレストクラブによる インターンシップの取組について

仙南フォレストクラブは、仙南地域で活動する林業研究グループで、平成二十一年の設立以降、林業に必要な知識・技術の習得と人材育成に取り組んでいます。

近年、特に力を注いでいるのが、県内で林業関係学科を有する唯一の高校である宮城県柴田農林高等学校へのインターンシップ活動です。平成三十年度には九回、今年度も今まで七回のインターンシップを実施しました。

中でも特筆すべき活動が、福島県内の民間木材市場である南東北木材株式会社と連携した



演習林内での鈴木社長の講話

木材に係る教育支援です。平成三十年には市場での競り売りを見学したほか、今年の八月には、同社の鈴木社長を青根演習林に招き、演習林を散策しながら「高く売るための木材生産のポイント」について講義をいただきました。

このような取組が評価され、平成三十一年二月には、林業グループコンタールの林野庁長官賞を受賞し、今や仙南地域における林業教育や担い手育成にとり、なくてはならない団体となっています。



林野庁長官賞を受賞

県では、林業普及指導員などが中心となってインターンシップ活動の支援等を行っており、今後も仙南地域の担い手育成に取り組んでまいります。

(大河原地方振興事務所)

「鳥獣被害対策専門指導員」による イノシシ捕獲の取組について

近年、大河原管内では、イノシシなどによる農作物被害が深刻化している一方、狩猟者は減少し、高齢化も進んでいます。

狩猟者の確保・育成は喫緊かつ重要な課題となっており、ことから、イノシシの捕獲体制の強化に向けて、大河原地方振興事務所に野生鳥獣適正化事業による非常勤職員六名を配置しています。配置された非常勤職員は、必要な免許・資格(狩猟免許や銃所持許可等)を取得した



止め刺しを行う様子



捕獲されたイノシシ(この時4頭捕獲)

後、「鳥獣被害対策専門指導員」となり、農作物被害の低減に向け、箱わな及びくくりわなを設置するなど、捕獲活動を行っています。

さらに、今年度からは、これまで実施していなかった土日・祝日も巡回活動を行い、毎日捕獲活動を行っており、管内の四市町(白石市、村田町、川崎町、丸森町)において市町・地元捕獲隊等との連携・連絡調整のもと、イノシシ捕獲に全力で取り組んでいます。

(大河原地方振興事務所)

林業経営者層向け 研修の開催について

林業振興課では、今年度から森林環境譲与税を活用した林業経営者向け研修を公益財団法人みやぎ林業活性化基金を委託先として実施しています。当研修は、林業事業者の経営者層を対象として、森林の経営管理を効率的に行うことができる人材の育成を目指しています。

今年度は全五回実施しており、第一回から第三回までは、株式会社マイナビと連携し、それぞれ「職場環境改善」、「事業者の採用」、「就業者確保」をテーマに、会社の魅力を伝える求人票の書き方や職員の定着を図るための職場環境改善はどう取り組むべきかなど、人材確保育成の具体的な手法について学びました。

第四回では、全国森林組合連合会と連携し、山形県金山町森林組合の狩谷常務をお招きして、航空レーザー計測による林業成長産業化に向けたICT林業について講演を行いました。第五回では、山形県温海町森林組合を訪問し、低コスト化に

向けた取組として、集約化施策の推進や組織改革、「焼畑あつみかぶ」栽培を活用した再造林の取組などについて、現地視察を交えた研修を実施しました。

今年度は、人材の確保から成長産業化に向けた県外事業者の取組など、幅広いテーマとなりましたが、受講された方々は大変熱心に受講し、質問も活発に行われ、来年も研修を続けて欲しいとの意見や、現地視察が刺激になったという感想をいただきました。

今後も多くの林業経営者層の方に受講していただけるよう充実した研修計画を策定してまいります。



研修会

(林業振興課)

「東北・北海道ブロック林業グループコンクール」において、見事ブロック一位になりました！

八月二十六日、秋田市において林野庁主催の「東北・北海道ブロック令和元年度林業グループコンクール」が開催され、宮城県代表として発表した特定非営利活動法人SCR（以下、NPO法人SCR）が見事ブロック一位に輝きました。

ブロックコンクールでは、北海道と東北六県の代表が、日頃の林業グループ活動、研究成果を発表し、意見交換を行いました。

発表では、NPO法人SCRの林業女子、木工女子としての



表彰式



活動の様子

活動に加え、新たに「ミツバチの住む里山づくり」に挑戦するなど地域に根ざした取組の様子を報告しました。途中、メンバーがミツバチガールに変身するなど会場を盛り上げ、堂々とした発表でした。



(林業技術総合センター)

みやぎ防災林パートナーシップ事業の取組について

森林整備課では、平成三十一年度から「みやぎ防災林パートナーシップ事業」を始めましたので、紹介させていただきます。

●事業の目的

東日本大震災の津波により、失われた海岸防災林については、国・県がクロマツなどの植栽を進めています。震災前、海岸防災林の管理を担っていた地域住民が転居を余儀なくされたことから、植栽後の育林・管理が今後の課題となっています。

本事業は、新たに植栽した約七百五十畝の区域(民有林)について、県民等が主体的に関わる仕組み(みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動)を軸に民間と県・市町が協働して海岸防災林を管理する体制を作るとともに、海岸防災林の重要性や役割を普及啓発し、現在育林等の活動を行っている団体を支援するものです。

*県・市町・民間団体の間で協定

を締結し、概ね五十年継続的な森林整備を民間団体が行う。

〈取組の内容〉

●防災林検討委員会の開催

県・関係市町・みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動団体が委員となり、海岸防災林の管理方針を策定します。また、関係機関の連携を図るため、協議会(県、市町、活動団体等が構成員)の設立を検討します。

●ワークショップ・シンポジウムの開催

海岸防災林の重要性や役割を広く県民に知ってもらうためにワークショップを開催するとともに、実際に育林活動を行って



シンポジウム

いる団体等を対象としたシンポジウムを開催しています。平成三十一年三月に開催したシンポジウムには、約六十名が参加し、植栽後の本数調整をテーマに活発な討論が行われました。

●育林体験ツアーの実施

海岸防災林の復旧状況の見学及び植栽後の森林の手入れの方法を学び、植えるだけではなく、その後も復興に寄与できることを体験します。



講師による枝打ちの説明

●フォーラムアップ研修の実施

シンポジウム等に参加し、活動に関心を持った団体・個人に対し、他団体の活動状況や専門家の指導に基づいた森林管理の方法(育林技術)などを学ぶ研修を実施しています。



作業指導講師の派遣(座学)

●活動団体への作業指導講師の派遣

育林活動を行っている団体等に講師を派遣し、技術的なアドバイスを行い、活動を支援します。

この事業の財源は、みやぎ環境税のほか、企業版ふるさと納税を活用しており、昨年度は四社から寄附をいただきました。

これらの活動のほか、今年度は、東京都で開催されるイベントに参加し、海岸防災林の重要性や役割を多くの人に知ってもらうとともに、後世に伝えていく活動も行っていく予定です。

(森林整備課)

〔令和二・三年度〕国有林
モニターを募集しています

東北森林管理局では国有林野事業の運営などについて国民皆さんの理解・促進を図るとともに、意見、要望等をお聞きし、これを国有林野の管理経営に役立てることに伴い、開かれた「国民の森林」に相応しい管理経営の推進に資することを目的として「国有林モニター」を募集しております。

募集内容は、以下のとおりです。

【募集人員】四十八名程度

※人数及び年齢・男女比等の均衡を図るため、最終的な人数と前後する場合があります。

【募集期間】令和元年十二月二日

(月)～令和二年一月三十一日(金) ※当日必着

【任 期】令和二年四月一日から二年間

【内 容】アンケートへの回答、現地見学会・国有林モニター会議への出席など

【応募方法】

東北森林管理局のホームページに掲載している応募用紙に必要事項を御記入の上、郵送、F

AX又はメールのいずれかの方法で、お問い合わせ先に御応募ください。

【選考結果】

選考結果は令和二年三月中旬に応募者全員に通知します。

応募資格など、詳しくは東北森林管理局ホームページを御覧いただくか、担当までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

東北森林管理局

企画調整課 林政推進係

〒0100185 秋田市中通五丁目九番十六号

電話：018(836)2228

FAX：018(836)2031

メール：t_kikaku@maff.go.jp

HP：http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/



現地検討会

(林野庁東北森林管理局
仙台森林管理署)

第二回
宮城つながる森業交流祭
が開催されました

十一月八日に、みやぎ森と緑の県民条例に基づき、「豊かな海を育む森業」をテーマとした「第二回宮城つながる森業交流祭」が開催されました。

森づくりや木づかいに貢献した団体及び林産物品評会で優秀な成績をおさめた個人の方々への表彰が行われたほか、森と海の関係についての基調講演やパネルディスカッションが行われ、森と海のつながりについて考える貴重な時間となりました。

また、同日は、各方面で森林、林業・木材産業に係わる団体によるパネルが、県行政庁舎内に五十枚以上展示されたほか、六団体による林産物・水産物の販売会も行われました。

当日の参加者は、百五十名を超えました。県では、「宮城らしい持続可能な未来を創造する森林、林業・木材産業」を目指し、引き続き各施策に取り組みでまいります。



表彰者



主催者による挨拶

(林業振興課)



基調講演



林産物・水産物販売会



十月十九日(土)及び二十日(日)に仙台市勾当台公園において、豊かな海づくりフェスタ2019が開催されました。当イベントは、来年度開催される「第四十回全国豊かな海づくり大会」の機運の醸成を図るため開催されたものです。今年の水産林政部設立元年

**豊かな海づくりフェスタ
2019
での活動報告**

で、「豊かな海を育む森業」をテーマとした「豊かな森ふれあいゾーン」を設け、十一テントを設置しました。当日は、水産・林業両ブースにおいて、子供向けのブースが多く出展され、多くの親子に会場いただきました。



ジオラマを作成する来場者



森と海のつながりを体験するジオラマ(樹木は来場者が作成)



丸太切り体験



カンナくずプール

は、日ごろから木育活動に尽力されている方々からの指導や資材提供をいただき、多くの子供達が木に触れる機会になりました。



木エクラフト体験



ハーベスタシミュレーション

ハーベスタシミュレーションコーナーでは、多くの男の子がレバーを握り、モニターを見ながら木の伐採や玉切りの仮想体験をしました。

また、日ごろから地域や学校で、さまざまな啓発活動をされている方々による、木エクラフト体験会なども行われました。



CLT展示ブース



羊毛を使ったキーホルダーづくり



おもちゃチェーンソー体験



木製品の販売

◆次号のお知らせ

みやぎの林業だより次号は令和二年三月の発行を予定しております。

みやぎ森と緑の県民条例基本計画の進捗状況などについて掲載する予定となっております。



イベント開催に当たっては、多くの機関からブースの提案や、資材の提供をいただいたほか、当日もブース運営等の協力をいただきました。この場を借りて活動報告をするともに、改めて御礼を申し上げます。
(林業振興課)

木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況(令和元年9月)

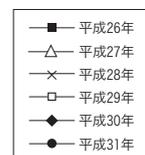
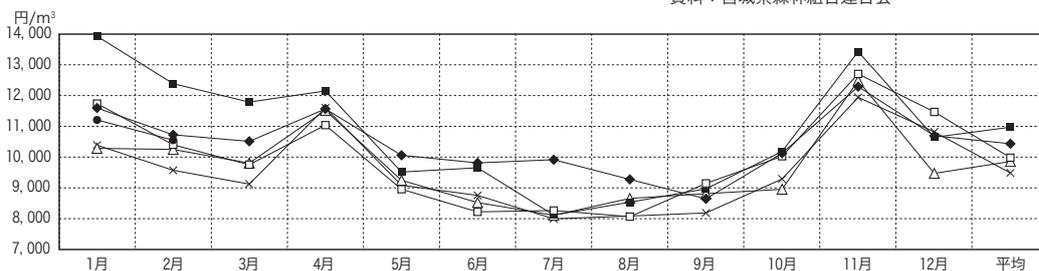
樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m ³)					
			仙南	仙北	東和	大衡	津山	石巻
スギ	3.00	14~16	—	—	10,080	—	—	—
		16~30	—	—	—	—	—	—
		20~30	10,800	—	—	10,800	10,080	—
	4.00	10~13直曲	9,000	9,000	9,500	9,000	9,500	—
		14~18	9,500	9,000	9,500	9,000	9,500	—
		20~28	—	10,080	10,080	—	—	—
		30上	—	10,080	10,080	—	—	—
	3.65 ~4.00	20~28	10,800	—	—	10,800	10,080	—
		30上	11,520	—	—	10,800	10,080	—
1.95	16上	6,120	6,120	6,120	6,120	6,120	—	

資料:宮城県森林組合連合会

概況

素材動向

・素材価格は前年同時期より
下降の傾向にある。



素材: 県森連共販所
市況(平均価格)

図1 素材価格の動き

特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

単位:円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成26年	1,010	1,001	917	781	851	859	891	912	911	874	981	1,094
平成27年	1,144	1,055	984	916	886	766	852	948	960	970	962	1,038
平成28年	1,037	1,025	972	946	965	955	961	977	1,018	1,014	998	1,054
平成29年	1,034	945	861	862	890	775	863	851	884	980	971	1,034
平成30年	1,160	958	947	795	958	851	836	913	987	968	929	1,009
平成31年	1,064	993	895	932	887	888	901	989	949	908		

資料: 仙台中央卸売市場

概況

・平成24年に原木しいたけ(露地)が
出荷制限指示を受けたこと等に伴い、
価格は大きく下落したが、全国的な
品薄状況を背景に平成26年次から
平成30年次の平均単価は4年連続で、
900円代と、震災前の平均価格を上
回っている。
・なお、平成30年次の県産生しいたけ
の入荷量は214t(前年比63t減)であり、
市場占有率は44%(前年比10ポイント
減)であった。

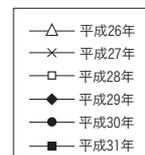
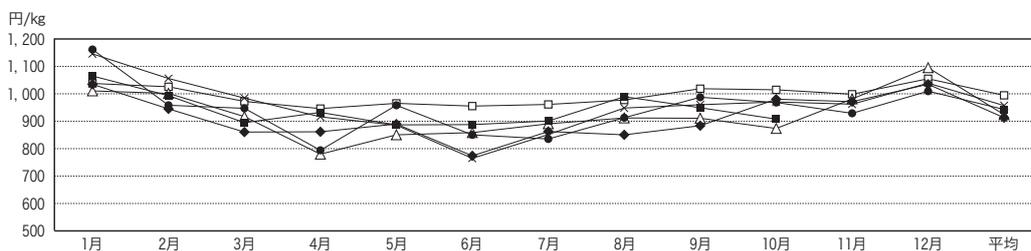


図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(令和元年9月)

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
令和元年9月(戸)	1,159	977	182	84.3
平成30年9月(戸)	1,689	1,148	541	68.0
前年同月比(%)	68.6	85.1	33.6	—
平成30年10月~令和元年9月(戸)	18,824	13,141	5,683	69.8
平成29年10月~30年9月(戸)	19,540	13,798	5,742	70.6
前年同期比(%)	96.3	95.2	99.0	—

資料: 住宅着工統計

概況

新設住宅着工戸数

・9月の新設住宅着工数及び木造戸数は
前年を下回っている。木造率は上昇した。
・累計比は前年を下回っており、木造
戸数及び木造率も前年を下回っている。

国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負



宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 武弘

本社 〒980-0871
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150

営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所



坂元植林合資会社 株式会社サカモト 坂元植林の家

サカモトグループ



地域との共生
「めぐりめぐみ」をテーマに
私たちは自然を愛し、
大切に育てていきます。

〒989-1601 宮城県柴田郡柴田町船岡中央1-9-12
Tel:0224-58-1100 Fax:0224-58-2252
www.web-sakamoto.co.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 征弘
専務理事 亀山 武弘
理事 小澤 幸三
理事 石田 竜也
監事 阿部 貢夫
監事 一條 英夫

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

宮城県木材チップ工業会

会長 奥津 文男
副会長 亀山 征弘
副会長 永井 政雄
副会長 米澤 光秀
ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151

緑をはぐくみ水をつくる
奥地水源地域の森林整備

水源林造成事業

宮城県水源林造林協議会

〒980-0011
仙台市青葉区上杉2丁目4-46
宮城県森林組合会館内
TEL (022) 266-7121

一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 遊佐 勘左衛門
事務局 長 佐々木 治樹

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号
TEL (0229) 22-1281
FAX (0229) 22-1281
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

次代へ進むメーカーと共に技術で、商品で、ニーズに応えます。
製材機械・木工機械・林業機械・プレカット・集成材プラント・乾燥機は

筒井鋼機株式会社

信頼の高い筒井鋼機株式会社へ

本社 仙台市青葉区花京院二丁目2-22 TEL022-224-1261・FAX022-265-9231
盛岡営業所 盛岡市青山四丁目47-32 TEL019-641-7713・FAX019-641-7807

E-mail info@tutuiokoki.co.jp
URL http://www.tutuiokoki.co.jp

見て触れて 住んでしみじみ 木の住まい 宮城県木材協同組合

理事長 千葉 基

For Woody Life

〒981-0908 宮城県仙台市青葉区東照宮1-8-8
TEL : 022-233-2883 FAX : 022-275-4936
E-mail:miyagi_wood@waltz.ocn.ne.jp

みやぎ材利用センター

みやぎ材利用センター本部 TEL.022-233-2883
(宮城県木材協同組合)

利用センター TEL.022-239-2661
総合窓口

優良みやぎ材、県産材を全てお世話致します。ちょっとした疑問から注文まで全てお任せ。ご要望の工期に併せてご提供致します。

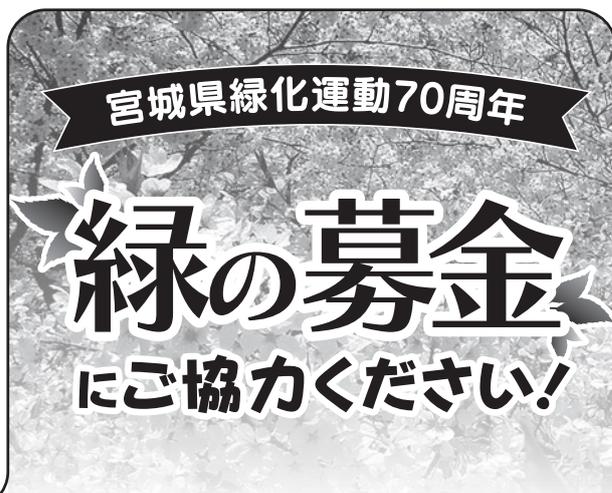
- 建築資材部 (株)仙台木材市場 TEL.022-239-2011
- 土木資材部 宮城県森林組合連合会 TEL.022-345-2205
- 合板資材部 石巻地区森林組合 TEL.0225-93-1711

〒981-0908 仙台市青葉区東照宮1-8-8
TEL : 022-233-2883 FAX : 022-275-4936

森林は大切な資源です
森林整備を通して
美しい森林を未来に伝えます

 一般社団法人 宮城県林業公社
(森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172
<http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp>



緑の募金運動スローガン

「緑の募金で進めよう SDGs」～^{もり}森林を守る ^{もり}森林を活かす～

令和2年度 緑化促進事業 募集中!!

- みどり環境促進事業
- ふれあいの森づくり事業
- ふるさとの樹木保存事業
- みんなの森造成事業
- みんなの街づくり事業
- 次代へ繋げる海岸防災林の保育を担うボランティア養成・啓発事業
- 木育活動支援事業
- 海岸防災林再生事業
- 宮城県緑化運動70周年記念緑化事業



詳しくはHP(<http://miyagiryokusui.com>)または下記事務局までお問い合わせください。



公益社団法人宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10階
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中森力基金)等を通じ、森林の公益性発揮を
目指した活動を積極的に支援していきます。

農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号(JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

JForest 宮城県森林組合連合会

森林組合系統の新しいロゴマークです

仙台市青葉区上杉2丁目4-46
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は

仙南木材センター 0224-65-2166 東和木材センター 0220-45-2240
大衡総合センター 022-345-2205 津山木材センター 0225-68-3038
岩出山木材センター 0229-72-1877

■樹木の枝や根の有効利用は ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

花粉症対策スギ挿木コンテナ苗木、海岸防災林用抵抗性クロマツ苗木をはじめ、
林業用及び森林復旧用各種苗木のご用命・ご相談承ります。

宮城県農林種苗農業協同組合

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号
TEL (022) 222-3661 FAX (022) 222-3688

林業の^今を伝える月刊誌 令和2年度の購読申込受付開始!!



GR 現代林業

A5判 80頁
年間購読料 5,400円(送料込み)



林業新知識

B5判 24頁
年間購読料 3,000円(送料込み)



山林

A5判 66頁
年間購読料 3,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
宮城県仙台合同庁舎10階

TEL 022-301-7501
FAX 022-301-7502

発行 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号
編集協力 宮城県農林水産部林業振興課 ☎022-222-3011